YAMAHA

J

パワーアンプ

MX-A5000

取扱説明書

ご使用前に本書の「安全上のご注意」（16 〜 18 ページ）を必ずお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。

■ 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

本書は下記のウェブサイトから PDF 版をダウンロードできます。
http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/

保証書別添付

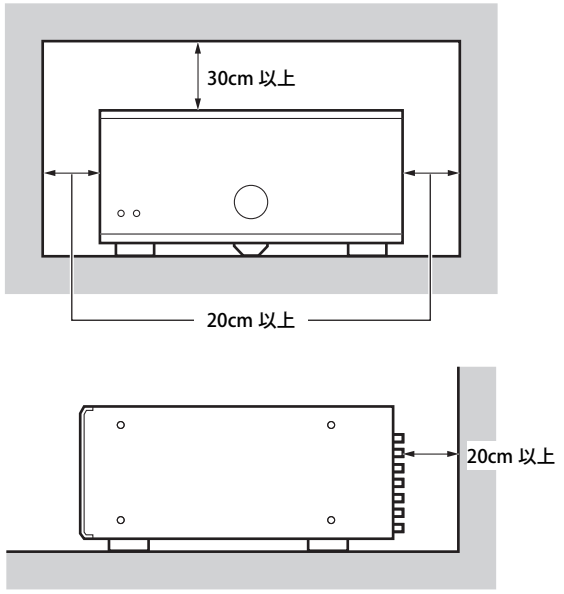
使用上のご注意

ご使用前に「安全上のご注意」（16 ～ 18ページ）を必ずお読みください。

本機を下記の場所には設置しないでください。

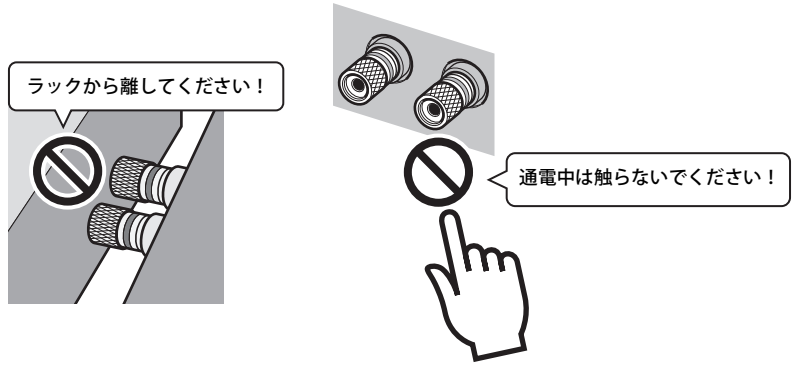
- 通気性の悪い場所
- 直射日光のあたる場所、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）
- 不安定な場所、振動する場所
- ほこりや湿気の多い場所

また、放熱のため、本機の周囲に左右 20cm、上 30cm、背面 20cm 以上のスペースを確保してください。



本機のスピーカー端子は金属部分がむき出しになっているため、スピーカー端子が金属製ラックなどに触れると、ショートして故障するおそれがあります。スピーカー端子がラックなどに触れないよう、本機背面には十分なスペースを確保してください。

また、通電中はスピーカー端子に触らないでください。感電するおそれがあります。



本機には音量調節機能（ボリューム）がありません。必ず音量調節機能を持っている機器（プリアンプなど）と接続のうえ、ご使用ください。音量調整機能がない CD プレーヤーなどを直接接続すると、過大な音量により、本機やスピーカーが故障するおそれがあります。

目次

使用上のご注意 2
付属品を確認する 3
本機の特長 4
各部の名称 5
前面 5
背面 6
接続する 8
スピーカーを接続する 9
電源コードを接続する 10
本機の電源を入 / 切する 10
その他の機能 10
本機の電源を自動的に切る（自動スタンバイ機能） 10
電源インジケーターを暗くする 10
本機と外部機器の電源を連動させる（トリガー機能） 11
スピーカーシステム（応用編） 12
バイアンプ接続対応のスピーカーを使う 12
2 組のフロントスピーカーを使う（SPEAKERS A/B） 12
1 つのチャンネルに 3 本のスピーカーを使う（マルチスピーカー） 12
付録 13
入出力信号経路図 13
故障かな？と思ったら 14
主な仕様 15
安全上のご注意 16

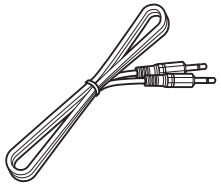
付属品を確認する

すべて揃っていることをお確かめください。

□ 電源コード



□ システム接続ケーブル



□ 取扱説明書（本書）



- 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本書で使用されている記号

  使用時の注意点や機能の制約が記載されています。

  知っておくと便利な補足情報が記載されています。

本機の特長

高品質パワーアンプ

■ 高出力 / 高音質アンプ搭載（150W×11 チャンネル）

本機は、電流帰還型三段ダーリントン方式の 11 チャンネルパワーアンプを搭載し、電源トランスにはハイエンド HiFi オーディオなどでも定評のあるトロイダル方式が採用されています。さらに、金メッキ処理を施した高級スピーカー端子を装備することで、ハイグレードな音質を実現しています。

■ バランス/アンバランス伝送に対応

バランス（XLR）、アンバランス（RCA）入力端子を全チャンネルに搭載し、チャンネルごとに選択が可能です。

バランス接続では、本機とプリアンプのケーブル接続で生じる外乱ノイズを最小化することで、高品質な音声信号を伝送できます。

また、アンバランス接続においても、本機ではグランドセンシング方式を採用することで、バランス伝送に近い高音質化を実現しています。

■ パワーアンプ性能を最大限発揮するシャーシ構造

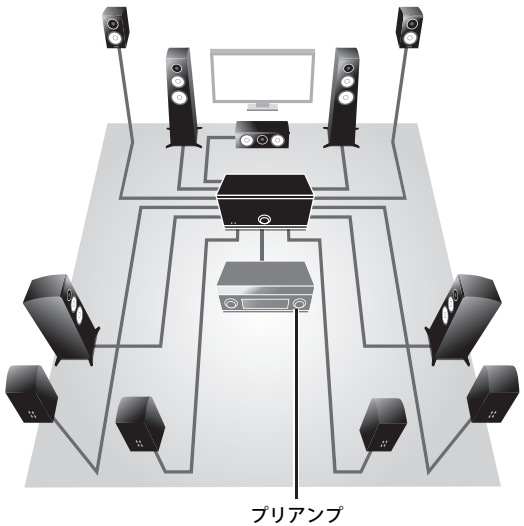
高品質なパワーアンプの性能を最大限発揮するために特別なシャーシ構造を採用しています。

- シンメトリカル（左右対称）なパワーアンプ設計
- アルミ製のフロントパネル / サイドパネルを採用
- アンチレゾナンステクノロジーを駆使、安定性に優れた脚部

多彩なニーズにこたえる拡張性

■ 自由自在なスピーカー設置が可能

全 11 チャンネルに同一性能のパワーアンプを採用することで、最大 11 チャンネルのホームシアター構築のみならず、マルチルームシステムなど、目的にあわせてさまざまなスピーカーシステム構築にご活用いただけます。



■ バイアンプ接続、マルチスピーカー再生にも対応

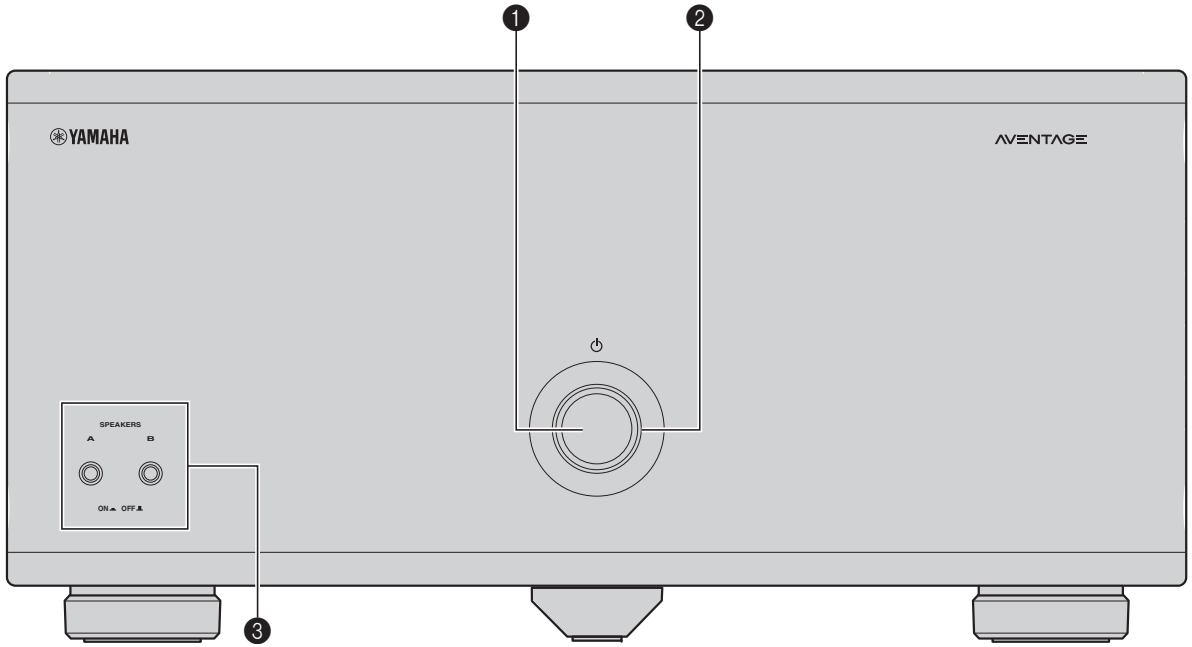
チャンネルセレクター機能を搭載しているので、プリアンプとのケーブル接続を増やすことなくバイアンプ接続やマルチスピーカー接続を実現できます。たとえば、CH.2 の入力音声を CH.2 と CH.3 の両方のスピーカー端子から出力して高音質なバイアンプ駆動を実現したり、CH.1（モノラル）で入力した音声を CH.1、CH.4（L）、CH.4（R）に接続した 3 本のスピーカーから出力したりできます。

■ プリアンプから本機の電源制御が可能（トリガー機能）

トリガーアウト機能に対応している機器（AV プリアンプなど）の電源操作に連動して本機の電源を操作できます（TRIGGER IN）。また、TRIGGER IN 端子の入力信号をそのまま出力して、別の機器（ヤマハ製サブウーファーなど）の電源をカスケード接続で制御することもできます（THROUGH OUT）。さらに、本機の電源操作に連動して別の機器を制御（TRIGGER OUT）することも可能なので、用途にあわせてさまざまな電源連動システムを組むことができます。

各部の名称

前面



❶ ⏻（電源）キー

電源を入 / 切（スタンバイ）します（10ページ）。

❷ 電源インジケーター

本機の電源が入っているときに点灯します。

点滅する場合は、保護回路が作動しています。詳しくは「故障かな？と思ったら」（14ページ）をご覧ください。

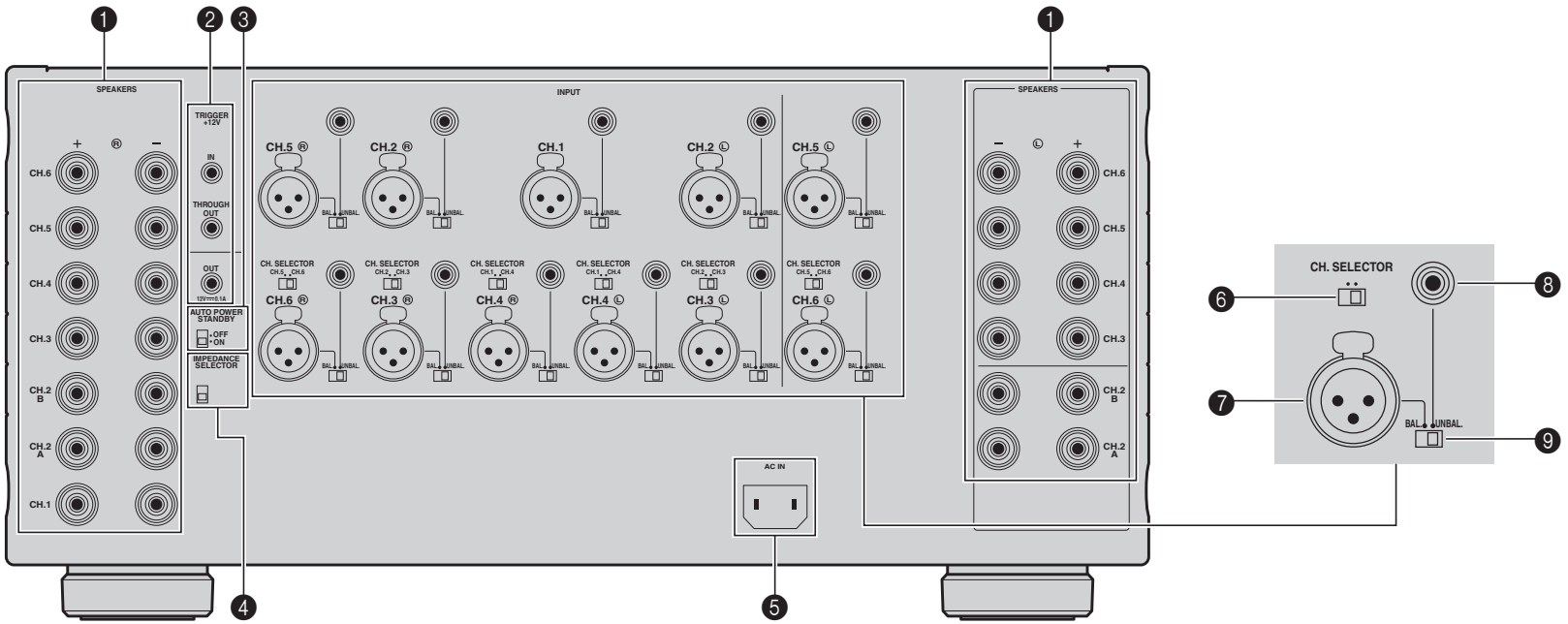
- 必要に応じて、電源インジケーターを暗くできます（10ページ）。

❸ SPEAKERS A/B（スピーカー A/B）キー

スピーカー端子（CH.2 A/B）の出力を有効 / 無効にします。

- 初期状態では、CH.2 A 端子、CH.2 B 端子ともに無効になっています。使用するスピーカーに応じて、該当キーを押してください。
- CH.2 A 端子、CH.2 B 端子にスピーカーを接続して同時に使用する場合は、インピーダンスが 8Ω 以上のものを接続し、IMPEDANCE SELECTOR を上側に切り替えてください（9ページ）。

背面



注意

- **各種接続やスイッチの操作を行う前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。**

❶ SPEAKERS（スピーカー）端子
スピーカーを接続します（9ページ）。

❷ TRIGGER（トリガー）端子
トリガー機能対応の機器を接続します（11ページ）。

❸ AUTO POWER STANDBY（オートパワースタンバイ）スイッチ
自動スタンバイ機能を有効 / 無効にします（10ページ）。

❹ IMPEDANCE SELECTOR（インピーダンスセレクター）
接続するスピーカーに応じて、本機のスピーカーインピーダンス設定を切り替えます（9ページ）。

❺ AC IN（AC イン）端子
電源コードを接続します（10ページ）。

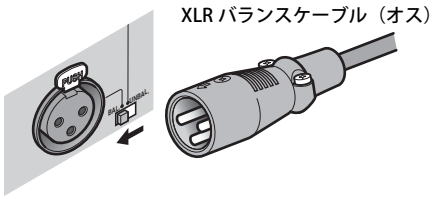
❻ CH. SELECTOR（チャンネルセレクター）
（CH.3、CH.4、CH.6 のみ）
バイアンプ接続（12ページ）やマルチスピーカー接続（12ページ）を行う際に、各アンプ（CH.3、CH.4、CH.6）に入力する音声を設定します。

❼ INPUT（インプット）端子（XLR）

XLR 出力端子を持つプリアンプを接続します（8ページ）。

XLR 端子を使う場合は、該当チャンネルの BAL/UNBAL スイッチを「BAL」に切り替えてください。

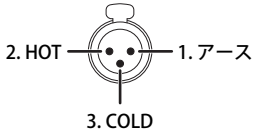
XLR バランスケーブルを接続する際は、ピンどうしをあわせ、ケーブルのコネクター（オス）を「カチッ」と音がするまで差し込んでください。



- ケーブルを本機から取り外す際は、端子上部の PUSH ボタンを押しながらコネクターを引き抜きます。

XLR 端子について

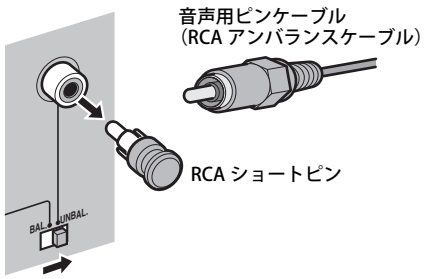
- 本機の XLR 端子のピン割当は以下のとおりです。XLR バランスケーブルを接続する前に、プリアンプの取扱説明書を参照し、以下のピン割当に対応していることをご確認ください。



❽ INPUT（インプット）端子（RCA）

RCA 出力端子を持つプリアンプを接続します（8ページ）。

RCA 端子を使う場合は、該当チャンネルの BAL/UNBAL スイッチを「UNBAL」に切り替えてください。



- ケーブルを接続する際は、RCA 端子に装着されている RCA ショートピンを取り外してください。取り外した RCA ショートピンは、小さなお子様が誤って飲み込むことのないよう安全な場所に保管してください。
- ノイズの混入を防ぐため、RCA 端子を使わないときは RCA ショートピンを装着することをおすすめします。

❾ BAL/UNBAL（バランス / アンバランス）スイッチ

チャンネルごとに、使用する INPUT 端子（XLR/RCA）を切り替えます（8ページ）。

接続する

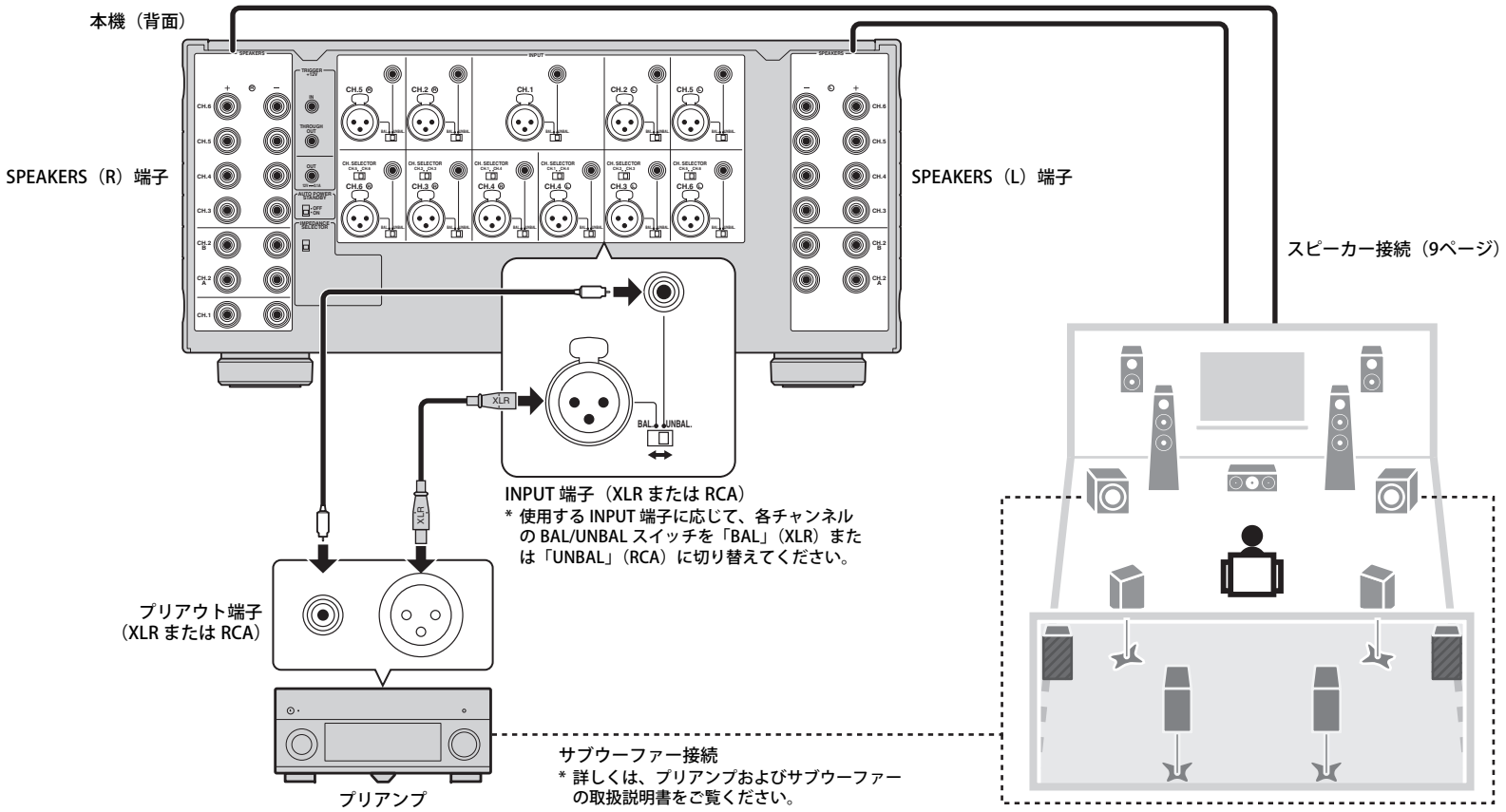
注意

- 各種接続やスイッチの操作を行う前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。

プリアンプとスピーカーを本機に接続します。

プリアンプの接続方法はプリアンプに備わっている出力端子により、バランス接続（XLR バランスケーブルを使用）

またはアンバランス接続（音声用ピンケーブルを使用）を選び、チャンネルごとに接続してください。



スピーカーを接続する

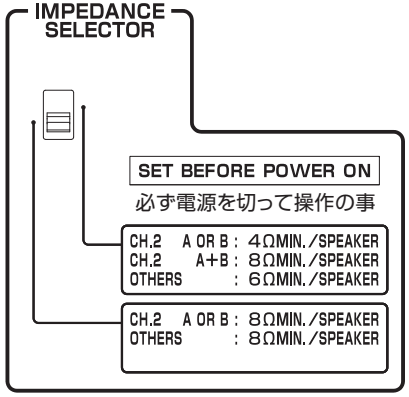
■ スピーカーインピーダンスについて

本機は以下のスピーカーインピーダンスに対応しています。

• CH.2 A/B：4Ω 以上（CH.2 A と CH.2 B を同時に使用する場合は 8Ω 以上）

• ほかのチャンネル：6Ω 以上

使用するスピーカーのインピーダンスに応じて、本機背面の IMPEDANCE SELECTOR の設定（上側 / 下側）を切り替えてください。



上側	次のいずれかのスピーカーシステムを使用する場合 • CH.2 A 端子と CH.2 B 端子のいずれかに 4Ω 以上 8Ω 未満のスピーカーを接続する。 • CH.2 A端子とCH.2 B端子の両方に8Ω以上のスピーカーを接続して同時に使用する。 • CH.2 A、CH.2 B 以外のスピーカー端子に 6Ω 以上 8Ω 未満のスピーカーを接続する。
下側（初期設定）	すべてのスピーカー端子に 8Ω 以上のスピーカーを接続する場合

■ スピーカーケーブルを接続する

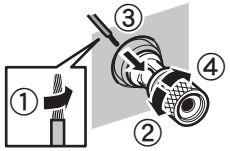
スピーカーケーブルで、本機とスピーカーのー（マイナス）端子どうし、＋（プラス）端子どうしを接続します。

① ケーブル先端の絶縁部（被覆）を 10mm ほどはがし、芯線をしっかりとよじる。

② スピーカー端子をゆるめる。

③ 端子側面（左上または右下）のすき間にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。

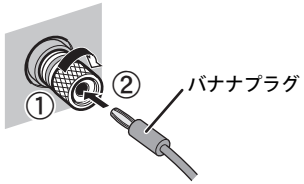
④ 端子を締め付ける。



バナナプラグを使用する場合

① スピーカー端子を締め付ける。

② 端子にバナナプラグを差し込む。



Y 型ラグを使用する場合

① スピーカー端子をゆるめる。

② 端子のリング部と基部の間に、Y 型ラグをはさむ。

③ 端子を締め付ける。

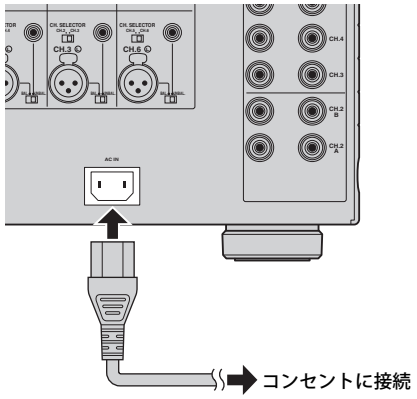


スピーカー端子の幅寸法：6.5mm

電源コードを接続する

接続やスイッチの操作がすべて完了したら、付属の電源コードを本機に接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

本機（背面）

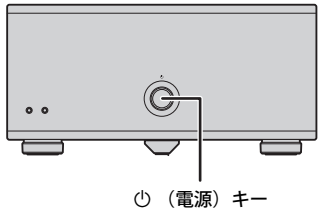


本機の電源を入 / 切する

⏻（電源）キーを押して、本機の電源を入 / 切します。

本機の電源が入っているときは、電源インジケーターが点灯します。

本機（前面）



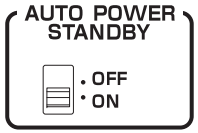
- TRIGGER IN 端子に外部機器が接続されている場合、⏻（電源）キーを押すと本機はスタンバイ状態になります。この状態で外部機器の電源を入れると、トリガー機能（11ページ）により本機の電源も自動的に入ります。

その他の機能

本機の電源を自動的に切る（自動スタンバイ機能）

本機は、電源を入れてから 8 時間経過すると、自動的にスタンバイに切り替わります。

自動スタンバイ機能を無効にするには、AUTO POWER STANDBY スイッチを「OFF」にしてください。



- 音声を再生中でも自動スタンバイ機能は作動します。
- TRIGGER IN 端子にシステム接続ケーブルが接続されている場合は、自動スタンバイ機能は作動しません。

電源インジケーターを暗くする

必要に応じて、本機前面の電源インジケーターを暗くできます。

- TRIGGER IN 端子に外部機器が接続されている場合は、以下の手順を実行する前に、外部機器の電源を入れてください。

① 本機の電源が入っている場合は、⏻（電源）キーを押して電源を切る。

② ⏻（電源）キーを 3 回押す（3 秒以内）。

電源インジケーターが暗くなります。

- もとの明るさに戻すには、上記の手順をもう一度実行します。
- 電源コードをコンセントから取り外した場合は、自動的にもとの明るさに戻ります。

本機と外部機器の電源を連動させる（トリガー機能）

トリガー機能を使うと、外部機器の操作に連動して本機の電源を制御したり、本機の電源操作に連動して外部機器の電源を制御したりできます。トリガー機能に対応しているパワーアンプや、ヤマハ製サブウーファーをお使いの場合は、付属のシステム接続ケーブルを使って本機の TRIGGER 端子に接続すれば、トリガー機能を利用できます。

目的に応じて、以下のいずれかの TRIGGER 端子にお使いの機器を接続してください。

IN（イン）端子：

トリガー出力に対応している機器（プリアンプなど）を接続します。

IN 端子に接続した機器の電源を操作すると、本機の電源が連動します。

• この機能を使用するには、本機の ⏻（電源）キーが押されている状態（電源入）にしてください。

THROUGH OUT（スルーアウト）端子：

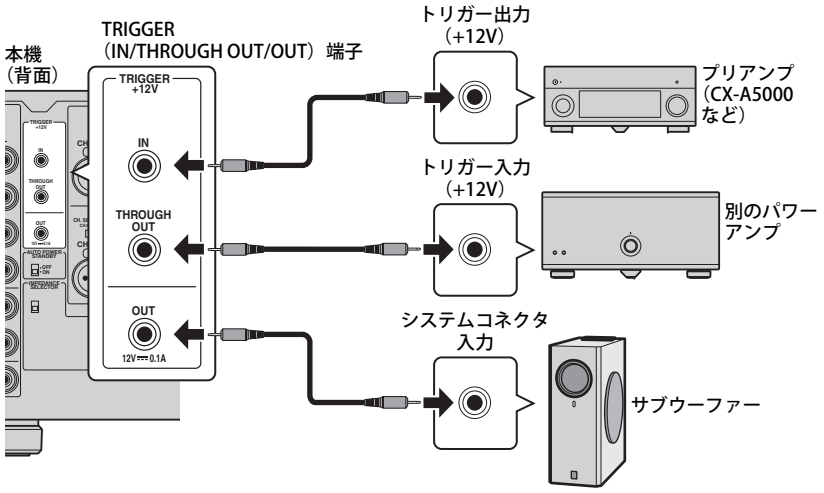
THROUGH OUT 端子は、IN 端子から入力された信号をそのまま出力します。

トリガー入力に対応している機器（別のパワーアンプなど）を接続すると、該当機器の電源が IN 端子に接続した機器の電源操作に連動します。

OUT（アウト）端子：

トリガー入力に対応している機器（サブウーファーなど）を接続します。

本機の電源を操作すると、OUT 端子に接続した機器の電源が連動します。



• TRIGGER 端子に複数の機器を接続する場合は、市販のモノラルミニプラグケーブルをご用意ください。

スピーカーシステム（応用編）

注意

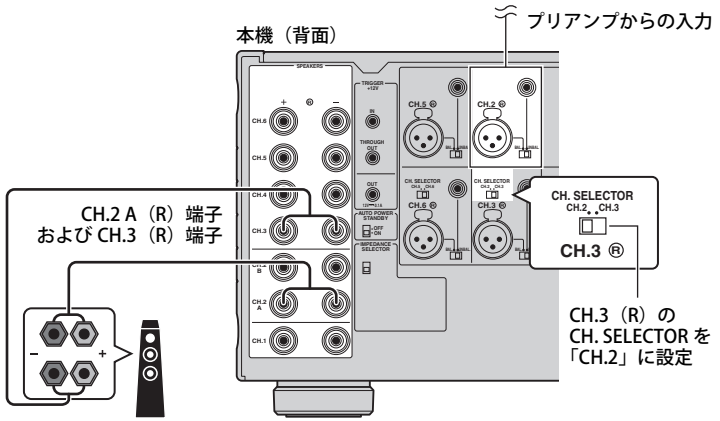
- 各種接続やスイッチの操作を行う前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。

バイアンプ接続対応のスピーカーを使う

バイアンプ接続対応のスピーカーを使うと、さらに高音質な音声を楽しむことができます。バイアンプ接続をするには、CH. SELECTOR（CH.3、CH.4 または CH.6）で該当アンプに入力する音声を設定し、組み合わせた 2 つの SPEAKERS 端子にスピーカーを接続します。

（接続例）

CH.2（R）のバイアンプ接続



CH.3（R）の CH. SELECTOR を「CH.2」に設定すると、CH.2（R）に入力された信号が、CH.2（R）と CH.3（R）の両方の SPEAKERS 端子から出力されます。このとき、CH.3（R）への入力は使用されません。

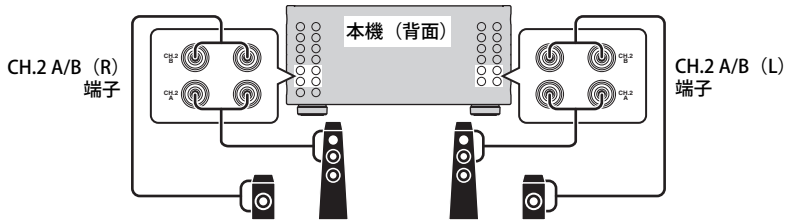
注意

- バイアンプ接続をする前に、必ずスピーカー側の高域と低域をつなぐ金具（またはケーブル）を取り外してください。バイアンプ接続をしない場合は、必ず金具（またはケーブル）を取り付けた状態で、スピーカーケーブルを接続してください。詳しくは、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。

2 組のフロントスピーカーを使う（SPEAKERS A/B）

2 組のフロントスピーカーを CH.2 A/B 端子に接続すると、本機前面の SPEAKERS A/B キーで、使用するフロントスピーカーを切り替えることができます。

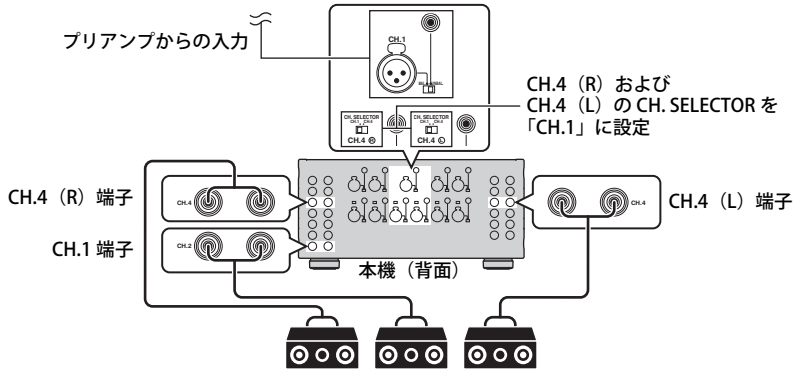
- CH.2 A 端子、CH.2 B 端子にスピーカーを接続して同時に使用する場合は、インピーダンスが 8Ω 以上のものを接続し、IMPEDANCE SELECTOR を上側に切り替えてください（9ページ）。



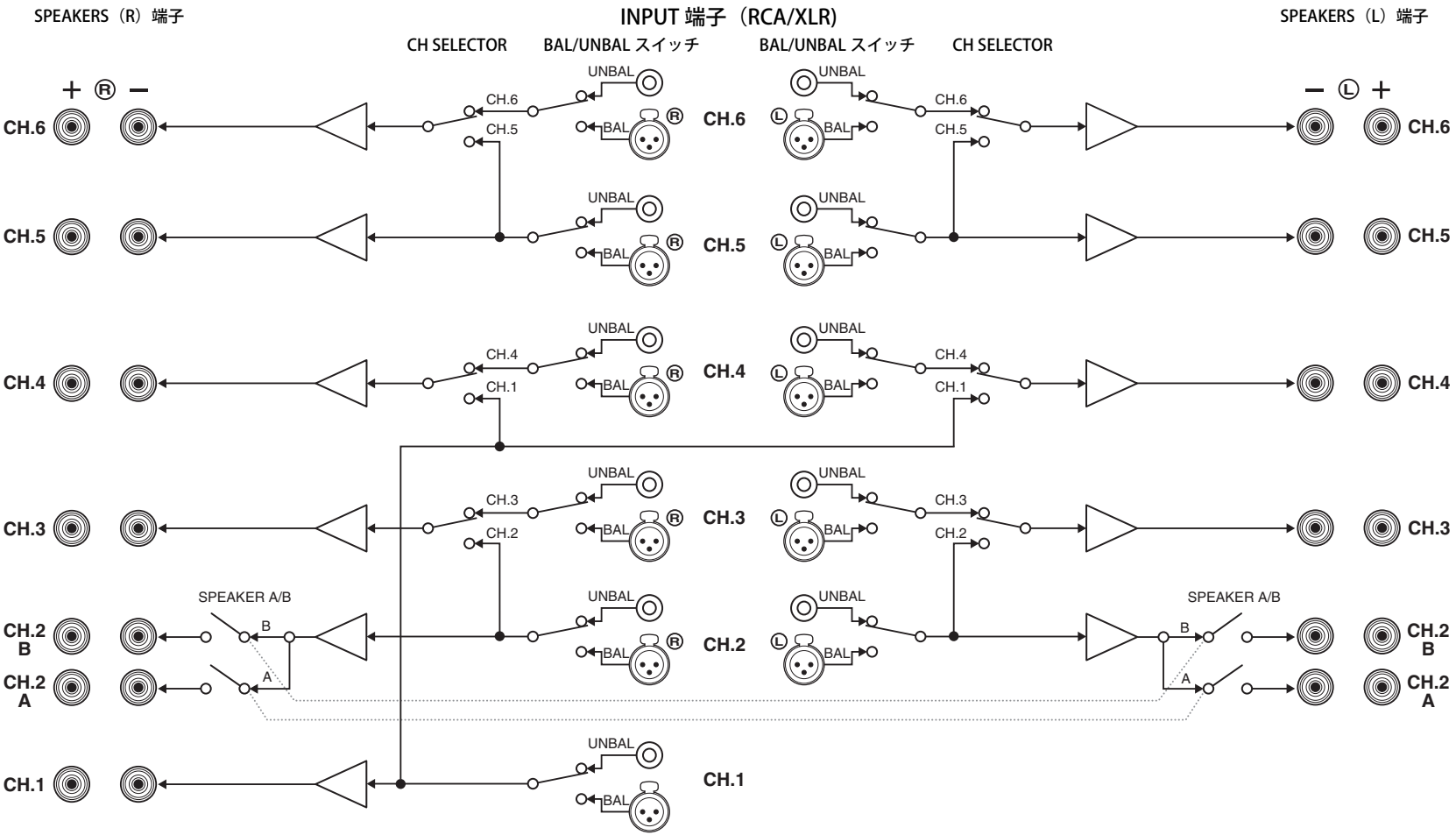
1 つのチャンネルに 3 本のスピーカーを使う（マルチスピーカー）

CH.1 の音声（センターチャンネルの音声など）を最大 3 本のスピーカーで楽しむことができます。このシステムを構築するには、CH. SELECTOR（CH.4）で該当アンプに入力する音声を「CH.1」に設定し、CH.1 と CH.4（L/R）の SPEAKERS 端子にスピーカーを接続します。

- 3 本のスピーカーは、同じ種類のものを使用することをおすすめします。



入出力信号経路図


SPEAKERS（R）端子
INPUT 端子（RCA/XLR)
SPEAKERS（L）端子
CH SELECTOR
BAL/UNBAL スイッチ
BAL/UNBAL スイッチ
CH SELECTOR
＋ Ⓡ －
－ Ⓛ ＋
CH.6
CH.5
CH.4
CH.1
CH.3
CH.2
UNBAL
BAL
SPEAKER A/B
B
A

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記をご確認ください。

対処しても正常に動作しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

最初にご確認ください …

① 本機および外部機器（プリアンプなど）の電源プラグがコンセントにしっかりと接続されている。

② 本機および外部機器（プリアンプなど）の電源が入っている。

③ 各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

症状	原因	対策
電源が入らない	保護回路が 3 回続けて作動した。 （この場合、電源インジケーターが点滅します。）	製品保護のため電源が入らなくなります。ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください。
	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	電源コードのプラグをコンセントから抜き、接続し直してください。
	TRIGGER（IN）端子に外部機器が接続されている。	本機の ⏻（電源）キーが押されている状態で、外部機器の電源を入れてください。
電源がすぐに切れてしまう	スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れた。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください（9ページ）。
	スピーカー端子が金属製ラックなどに触れたため、本機がショートした。	本機背面に十分なスペースを確保してください（2ページ）。
電源が自動的にスタンバイに切り替わる	自動スタンバイ機能が作動した。	自動スタンバイ機能を無効にするには、AUTO POWER STANDBY スイッチを「OFF」にしてください（10ページ）。
	外部機器の音量が大きすぎるため、本機の保護回路が作動した。	外部機器の音量を下げてください。
	本機内部の温度が極端に高くなったため、保護回路が作動した。	本機を通気性の良い場所に設置し、周囲に十分なスペースを確保してください（2ページ）。
音が出ない	BAL/UNBAL スイッチが正しく設定されていない。	接続状態にあわせて、BAL/UNBAL スイッチを切り替えてください（8ページ）。
特定のスピーカーから音が出ない	スピーカー端子（CH.2 A/B）の出力が無効になっている。	SPEAKERS A/B キーを押して、該当スピーカー端子の出力を有効にしてください（12ページ）。
	本機とプリアンプを接続している XLR バランスケーブル（または音声用ピンケーブル）、または本機とスピーカーを接続しているスピーカーケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
スピーカーから別のチャンネルの音声が出力される	CH SELECTOR が正しく設定されていない。	使用するスピーカーシステムにあわせて、CH SELECTOR を切り替えてください（12ページ）。

主な仕様

出力端子

- 音声
  アナログ RCA（アンバランス）×11
  アナログ XLR（バランス）×11（1：アース、2：HOT、3：COLD）

入力端子

- 音声
  スピーカー出力 ×11 チャンネル
  （13 端子：CH.1、CH.2-A［L/R］、CH.2-B［L/R］、
  CH.3［L/R］～ CH.6［L/R］）

その他の端子

- TRIGGER OUT×1（+12V/0.1A max.）
- TRIGGER IN×1（+12V In）
- TRIGGER THROUGH OUT×1

オーディオ部

- 定格出力（2ch 同時駆動）
  （20Hz ～ 20kHz、0.06%THD、6Ω）
  CH.1 ..... 170W
  CH.2（L/R）..... 170W
  CH.3（L/R）..... 170W
  CH.4（L/R）..... 170W
  CH.5（L/R）..... 170W
  CH.6（L/R）..... 170W
  （20Hz ～ 20kHz、0.06%THD、8Ω）
  CH.1 ..... 150W
  CH.2（L/R）..... 150W
  CH.3（L/R）..... 150W
  CH.4（L/R）..... 150W
  CH.5（L/R）..... 150W
  CH.6（L/R）..... 150W
  （1kHz、0.9%THD、8Ω）
  CH.1 ..... 170W
  CH.2（L/R）..... 170W
  CH.3（L/R）..... 170W
  CH.4（L/R）..... 170W
  CH.5（L/R）..... 170W
  CH.6（L/R）..... 170W
- 定格出力（非同時駆動）
  （1kHz、0.9%THD、6Ω）
  CH.1 ..... 230W/ch
  CH.2（L/R）..... 230W/ch
  CH.3（L/R）..... 230W/ch
  CH.4（L/R）..... 230W/ch
  CH.5（L/R）..... 230W/ch
  CH.6（L/R）..... 230W/ch
  （1kHz、0.9%THD、8Ω）
  CH.1 ..... 190W/ch
  CH.2（L/R）..... 190W/ch
  CH.3（L/R）..... 190W/ch
  CH.4（L/R）..... 190W/ch
  CH.5（L/R）..... 190W/ch
  CH.6（L/R）..... 190W/ch
- 実用最大出力（非同時駆動、JEITA）
  （1kHz、10%THD、6Ω）
  CH.1 ..... 280W/ch
  CH.2（L/R）..... 280W/ch
  CH.3（L/R）..... 280W/ch
  CH.4（L/R）..... 280W/ch
  CH.5（L/R）..... 280W/ch
  CH.6（L/R）..... 280W/ch
  （1kHz、10%THD、8Ω）
  CH.1 ..... 230W/ch
  CH.2（L/R）..... 230W/ch
  CH.3（L/R）..... 230W/ch
  CH.4（L/R）..... 230W/ch
  CH.5（L/R）..... 230W/ch
  CH.6（L/R）..... 230W/ch
- ダイナミックパワー（IHF）
  非同時駆動（8/6/4/2Ω）..... 190/250/350/500W
- ダンピングファクタ
  全チャンネル、1kHz、8Ω ..... 180 以上
- 入力感度 / 入力インピーダンス
  アンバランス（1kHz、100W/8Ω）..... 1.0V/47kΩ
  バランス（1kHz、100W/8Ω）..... 2.0V/47kΩ
- 最大許容入力
  アンバランス（1kHz、0.5%THD、8Ω）..... 1.3V 以上
  バランス（1kHz、0.5%THD、8Ω）..... 2.6V 以上
- 周波数特性（10Hz ～ 100kHz）..... +0/-3dB
- 全高調波歪率（70W/8Ω）..... 0.015% 以下
- S/N 比（IHF ネットワーク）
  （入力ショート 1kΩ、リファレンスレベル 150W/8Ω）
  ..... 116dB 以上
- 残留ノイズ（IHF ネットワーク）
  スピーカー出力（入力ショート）..... 60μV 以下
- チャンネルセパレーション
  （入力ショート 1kΩ、1kHz/10kHz）
  ..... 90/75dB 以上
- 電圧増幅率 29.1dB

総合

- 電源電圧 ..... AC 100V 50/60Hz
- 消費電力 650W
- 待機時消費電力（標準）..... 0.1W
- 無信号時消費電力（参考値）..... 75W
- 寸法（幅 × 高さ × 奥行き）..... 435×210×463.5mm
  （脚部、突起物を含む）
- 質量 25.4kg

※ 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



「ご注意ください」という注意喚起を示します。



「〜しないでください」という「禁止」を示します。



「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

⚠警告 この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

⚠注意 この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠警告

電源 / 電源コード



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- **異常なにおいや音がする。**
- **煙が出る。**
- **内部に水や異物が混入した。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



禁止

電源コードを傷つけない。

- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。**
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず実行

必ず AC100V（50/60Hz）の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

分解禁止



分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。

修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置



本機を下記の場所には設置しない。

- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。



放熱のため本機を設置する際には :

- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

（本機の周囲に左右 20cm、上 30cm、背面 20cm 以上のスペースを確保する。）

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上のご注意



放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

火災や感電の原因になります。



本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。



本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。

接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

お手入れ



電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠注意

電源 / 電源コード



長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。



本機を主電源から完全に切り離すには、電源プラグをコンセントから抜く。

本体の電源ボタンでシステムオフ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。

設置



不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。



必ず 2 人以上で開梱や持ち運びをする。
重いので、けがの原因になります。



直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。



ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。



他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。



他の電気製品を本機の上に置かない。
本機の上部は高温になります。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。



機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。
突然大きな音が出たり、感電したりすることがあります。



あおむけや横倒しには設置しない。
故障やけがの原因となることがあります。

移動



移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上のご注意



音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。



環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

お手入れ



手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。



薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性 第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ヤマハお客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053)460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付:月～金曜日 10:00～18:00　土曜日 10:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

■ ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様からお寄せいただくよくあるお問い合わせをまとめました。
ぜひご覧ください。

http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053)460-4830

受付:月～金曜日 9:00～18:00　土曜日 9:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03)5762-2125

九州、沖縄、中国、四国、近畿、北陸地域にお住まいのお客様
(06)6465-0367

修理品お持ち込み窓口
受付:月～金曜日 9:00～17:45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

東日本サービスセンター
〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター
〒554-0024 大阪市此花区島屋6-2-82
ユニバーサル・シティ和幸ビル9F
FAX (06) 6465-0374

＊ 名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証期間
製品に添付されている保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1



ヤマハ株式会社

© 2013 Yamaha Corporation Printed in Malaysia ZG28960